

### 1.3 HDP第3回シンポジウム 「Global Change, Local Challenge」 (参考資料-1参照)

#### a. 概要

HDP第3回シンポジウムは、1995年9月20～22日、ジュネーブにおいて開催された。本シンポジウムは、各国におけるHDP関連の取り組みの連携を強化し、拡大することを目的としたものであり、データや研究手法に関する課題、政策決定者との協力のあり方など、多様なテーマに関する報告や討議がなされた。

全体会議は人間次元に関する研究者による研究発表が主体であり、ワークプラン作成のための会議とは若干趣旨が異なった。しかし、分科会においてはHDPの研究プログラムに対する示唆も提案された。

#### b. 分科会の概要

以下に主な分科会における検討の概要を示す。

データに関する分科会においては、今後HDPにおいて必要とされるデータシステムに関する議論がなされた。本分科会では、インターネットによる情報公開の積極的推進に関する紹介がなされたが、接続が難しい国についてどうすべきかが検討課題として残されている。

エネルギーモデルに関する分科会においては、当面の具体的行動方針として、旧共産圏の国や途上国の状況を十分に反映したエネルギーモデルの適用拡大を図ること、及びエネルギーモデル開発にHuman Dimensionsを包含していく方策を検討することの2点が挙げられた。

自然科学と社会科学の協力に関する分科会においては、自然科学と社会科学との間での協力がなぜ必要が、またなぜ協力が難しいのかという問題について議論がなされた。

国際的なキャパシティビルディングに関する分科会においては、STARTの現在の活動状況、北極圏、南極圏の2地域グループの組織化の進展などが紹介された。

土地利用・被覆に関する分科会においては、LUCCプロジェクトの概要、主な研究課題などについての紹介がなされた。

また、各国におけるHDPのNational Programmeについて、アメリカやヨーロッパの主要国、及び日本などから、活動状況や研究計画が紹介された。

c. 第3回HDPシンポジウム 総括ステートメント（仮約）

第3回HDPシンポジウムが、1995年9月20日から22日にかけて、ジュネーブにおいて開催され、世界の主要な地域の49ヶ国から、279名が参加した。UNEP、WHO、EUを含む国際機関の代表、研究機関、大学、政府の資金提供機関、ブラジル、カナダ、ドイツ、インドネシア、日本、オランダ、ニュージーランド、南アフリカ、スイス、イギリス及びアメリカのHDPナショナルプログラムの代表者らが出席した。

本シンポジウムの目的は、地球環境変動の人間次元研究に関する重要な課題について、国際的かつ学際的な討論の場を提供することであった。本会議における発表者は、古代の気候変動への人間の対応に関する考古学的証拠、地球環境変動における人口の役割、国際的環境協定、及び地球変動に対する脆弱性の地域差など、広範囲にわたる研究課題について発表を行った。公開討論グループにおいては、エネルギー利用、環境安全保障、データの必要性和政策、社会科学研究と自然科学研究の統合などのトピックに関する検討が行われた。各グループは討論の結果を全体会議において報告し、HDP Steering Committeeに対して将来のHDPの分野横断的活動に関する提案を行った。

会議の結論として、出席者は他の国際的地球変動研究プログラム、各国のHDPナショナルプログラム、多国間研究協力体制などとの連携の上に、確固としたHDP研究プログラムを作成する必要があることを確認した。また、プログラムのアジェンダは、さまざまな多分野横断的テーマに関する研究の必要性に応じて決定されるものであるとの合意がなされた。

さらに、プログラムはHDP研究者の国際的ネットワーク形成のため、また、国家、地域、及び多国間の研究プログラムの取り組みの調整を行うために不可欠のものであることについても合意がなされた。